

【開催案内】

教育システム委員会 成果報告会

組織計画的に中間管理職を育成する仕組みづくり ―製薬業界の特性をふまえて―

日本 PDA 製薬学会 教育システム委員会

委員長 持田製薬株式会社 伊藤 千鶴子

副委員長 PDA 教育システム委員会 樋口 嘉博

開催日：2026年2月27日（金）

場 所：会場開催（東京：AP 新橋）

<https://www.tc-forum.co.jp/ap-shinbashi/access/>

時 間：13:00-17:00

主 催：日本 PDA 製薬学会 教育システム委員会

参加費(税込み)：個人会員、法人会員、関西医薬品協会加盟団体	16,000 円
行政会員、学会会員、学生会員、代議員	5,000 円
非会員	26,000 円
非会員+PDA 会員(基本コース)1年間お試し入会	26,000 円

【成果報告会 概要】

教育システム委員会では、医薬品の品質保証並びに安定供給体制を強化するためには、その中核業務を担う中間管理職の能力やスキルを向上させることが効果的と考えています。そこで、製薬業界の中間管理職に求められる職位に応じた知識とスキル形成、継続的にその知識を習得・維持するためのシステム要件に焦点を当てて検討を行っています。本報告会では、中間管理職に必要な知識とスキル、職位が求めるスキルを明確化する職務記述書（Job Description）と職務の継続に必要な教育を支えるための仕組み、教育効果とシステムの有効性評価とメンテナンスについて提案いたします。今回の報告においては、特に、教育設計の視点を仕組みづくりの重要要素として取り上げます。

招待講演として、教育設計学（インストラクショナルデザイン（ID））分野で長年にわたり理論的・実践的研究を展開され、教育実践の効果・効率・魅力の向上に多大な貢献をされてきました、武蔵野大学の鈴木克明先生にご登壇いただきます。本講演では、教育システム委員会メンバーによる事例報告を踏まえ、インストラクショナルデザイン（ID）の観点から具体的な示唆を提示いただきながら、インタラクティブな議論を通じて、教育設計の重要性とその実践方法について深く掘り下げていただく予定です。

教育システムの構築の大きな目的は、製薬企業の使命でもある、医療従事者や患者が安心して使用できる、「有効性」、「安全性」および「品質」が確保された医薬品を安定供給し続けることです。製品の回収や欠品、限定出荷などにより、患者に必要な治療ができなくなるといった、医療現場に多大な迷惑をかけることは避けなければなりません。そのために、製造販売業 GQP と製造業 GMP 体制をマネジメントシステムとして適切に運営・維持することが重要です。品質問題の予防に加え、発生した場合にもその影響範囲を最小限に抑えるためには、製造現場の中間管理職が重要な役割を果たさなければなりません。

第 31 回日本 PDA 製薬学会年会（2024 年 12 月 5-6 日開催）の教育システム委員会の成果発表および Q&A における議論では、参加者から、中間管理職の教育不足、内的・外的要因により意欲的に管理職業務に取り組めない事、中間管理職の教育の有効な実施と管理に課題を感じている等、多くの意見が寄せられました。教育システム委員会では、中間管理職の教育システムの在り方を検討し強化することが、これらの課題への取り組みとして重要と考えました。製造販売業者と製造業者には、GQP/GMP の規範から教育訓練が求められます。中間管理職の教育をシステムとして捉え、システムの重要な要素の抽出と「習得へのアプローチ」との視点で検討した内容を報告いたします。

プログラム

13:00 - 13:10	はじめに、本成果報告会の目的、Agenda 概要 委員長 伊藤 千鶴子（持田製薬株式会社）
13:10 - 13:40 (30分)	<p>第一演題 組織の成果につながる教育システム 原田 敏和（参天製薬株式会社）</p> <p>本演題では、「組織の成果につながる教育システム」をテーマに、GMP 省令や PIC/S が求める教育訓練の要点を踏まえつつ、組織風土の形成、受講者の成長を支える仕組み、PDCA に基づく実効性評価など、効果的な教育システムの構築に必要な視点について、本委員会で議論してきた結果を報告する。</p> <p>特に、中間管理職が果たすべき役割、受講者のモチベーションを促す目標設定、教育の成果を組織成果へ結びつける評価方法など、実務に有用な内容を中心に取り上げる。</p>
13:40 - 14:10 (30分)	<p>第二演題 医薬品製造所で求められる中間管理職像 内藤 貴博（シオノギファーマ株式会社）</p> <p>医薬品製造所の中間管理職には、日々の製造管理・品質管理・品質保証業務を安定的に進めるスキルだけでなく、「人」のマネジメントや育成、製造所内外との連携、そして変化の多い製薬業界の環境で継続的改善を進めること等、多岐に渡る能力の発揮が求められる。これら能力の発揮のため、Formal なスキル（知識・技術）と Informal なスキル（影響力）どちらも併せ持てるように努力する必要がある。本演題では、医薬品製造所の職員が持つべき Formal / Informal スキルについて紹介する。</p> <p>また、それらスキル習得のための教育計画を策定するためには、必要とする知識・能力を基に人物像を描き、習得すべきスキルを見える化する必要がある。見える化の一つとして、本委員会から職務記述書（Job Description）を利用した方法を提案する。</p>
14:10 - 14:40 (30分)	<p>第三演題 中間管理職の姿勢、適正及び教育訓練の効果 樋口 嘉博（PDA 教育システム委員会）</p> <p>中間管理職の姿勢は組織に大きな影響を与え、Quality Culture や生産性に大きな影響を与える。そして中間管理職の姿勢の一つであるモチベーションの低下が近年顕著とされている。本演題では、医薬品業界の中間管理職のモチベーションについて掘り下げ、その維持向上に向けた計画策定の内容を紹介する。</p> <p>また、中間管理職になる能力は高いがその意思はない「能力先行型」や管理職になる意思は高いものの能力に課題がある「意識先行型」を、いかに育成し中間管理職に登用するかが、会社の人材の層を厚くする鍵となる。これら中間管理職の適正に合った教育訓練カリキュラムやその効果の評価手法などの育成システムについて解説する。</p>

14：40 - 15：00	休憩
15：00 - 16：20 (80分)	第四演題 招待講演 インストラクショナルデザイン (ID)の導入による習得主義教育への転換 武蔵野大学 響学開発センター 教授・センター長 鈴木 克明 先生 藤澤 健 (小野薬品工業株式会社)
	医薬品業界における人材育成・教育訓練は、単なる法令遵守や知識伝達にとどまらず、企業の経営戦略を支える基盤であり、持続可能な組織づくりの要である。しかし現場では、GMP教育が「履修主義」(受講履歴の管理や形式的な実施)に偏りがちであり、真の「習得主義」(実務能力の定着・現場での活用)への転換が大きな課題となっている。本講演では、インストラクショナルデザイン (ID) の考え方を活用した「習得主義」への変革アプローチについて、事例を交えながら紹介する。
16：20 - 17：00 (40分)	パネルディスカッション 進行：上久木田 務 (KQM コンサルティング) 参加者：鈴木先生、委員会メンバー、会場参加者
17：00	閉会の挨拶 副委員長 樋口 嘉博 (PDA 教育システム委員会)

お申込み方法

参加ご希望の場合は、下記申込 URL より 2026 年 2 月 20 日までにお申込み下さい。

<https://pro.form-mailer.jp/fms/e8dbd44b344458>

ただし、先着順にて定員になり次第締め切らせて頂きますので、ご了承下さい。

講演の質問について

- ・質問は、当日または後日追加資料として回答させていただきます。
 - ・後日回答になる場合は参加者へ、追加資料として公開します。
- ※全ての質問に回答できるとは限りません、ご了承下さい。

講演資料、当日の入場について

- ・事前資料は後日ご案内致します。
- ・当日資料の配布はございません、必要な場合は各自ご用意ください。
- ・当日は時間までに会場へ直接お越しください。

以上